

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）

学校名 県立沼津東高等学校

※は行事実施後のアンケート、生徒・保護者のアンケート等による。

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	達成状況	自己評価	令和2年度の成果(○)と課題(●)
ア ◎「自治・利他・不屈」の精神を持つ生徒の育成	○自治会活動、部活動の充実 ○挨拶の励行、欠席・遅刻指導 ○PTAとの協働による交通指導 ○生徒指導への組織的対応	・自治会活動の満足度/90%以上※ ・ルールを守っている/90%以上※ ・部活動の満足度/90%以上※ ・交通事故件数/前年比3割減 ・欠席遅刻者数/1日3人以内 ・いじめ防止等への組織的対応	・自治会活動の満足度 85% ・ルールを守っている 98% ・部活動満足度 92% ・交通事故件数 1月現在 R1 21件 R2 24件 ・いじめ防止等対策委員会 開催0件	B	●香陵祭をはじめ、諸行事が中止・変更され自治会活動満足度が低下した。後期から次第に委員会活動などが活発になってきた。 ○多くの生徒はルールを守るようによく心掛けている。 ○部活動も多大な影響を受けたが、満足度は昨年度とほぼ同程度であった。 ●挨拶や会釈はまだ改善の余地が大きい。 ●登下校指導等を臨時に増やしたが、交通事故は増加となった。 ●年度当初の一斉休業の影響もあり、集団生活に適応が困難な不登校生徒などが例年より多く見られた。 ●いじめに発展するような事例はなかったが、幼稚さの残る行動も一部生徒に見られた。 ●公共のマナーやSNSの適切な使い方、交通安全意識の徹底等を引き続き指導していく。
	○保育・介護体験実習での学び ○奉仕活動の実践	・活動の満足度/95%以上※ ・1部活1ボランティアの実践	・園や施設の協力を得て、保育実習4施設、介護実習4施設で実施することができた。	A	○介護施設に対するイメージがプラスに変わった生徒、介護施設の必要性の認識が深まった。 ○家庭科の授業で学んだ子どもたちとの接し方を実践することで理解を深めることができた。
	○自治会・香陵祭実行委員会を中心とした香陵祭の企画・運営	・達成感・満足度/100%※ ・行事等の中心となって活動する生徒の増加	・新型コロナウイルス感染症の影響により香陵祭は中止となった。 ・香陵祭準備については、多くの生徒が中止が決まるぎりぎりまで真剣に取り組んでいた。	B	○中止決定に至るまで教員間・生徒間で様々な議論を行ない、生徒全員の理解や納得をほぼ得られた。 ●新しい実行委員に運営や企画のノウハウを工夫して遺漏なく伝えていく必要がある。
	○高原教室 ・安全及び規律意識の涵養 ・生徒主導による「集い」の実施	・事故/0件 ・参加者満足度/100%※	・事故0件 生徒満足度98.8% 集い満足度97.9% ・担当教員・生徒を中心とした入念な準備を行い、コロナ禍の中、事故のない高原教室が実行できた。	A	○生徒主体の集いなどを通して、来年の香陵祭に向けて、生徒のリーダーとしての資質育成につながった。 ●満足度が高く、より安全な登山を実施する。
	○海浜教室 ・安全及び規律意識の涵養 ・質の高い泳力向上指導 ・生徒主導による「集い」の実施	・事故/0件 ・安全に留意して行動/100%※ ・積極的に「集い」を企画・運営・協力した生徒/100%※	・事故0件 生徒満足度 73% 「集い」満足度83% ・「集い」は、準備段階から生徒の積極的な参加が見られた。	B	○日帰り・水泳訓練なしの実施となったが、講話・集いともに充実した行事とすることができた。 ○生徒主導の「集い」は、記念歌やFDで新たな試みも見られ、充実したものとされた。また、時間通りの運営ができた。
イ ◎「高い志」を持ち、その実現を目指す生徒の支援	○探究的な学びを深める指導の研究 ○進路実現に対応する行事の実施（職業を知るセミナー、大学出張講義、医学科講演会、大学見学、研究機関訪問研修、放課後講習、土曜講習、各種模試・大学別校外模試、進路講演会、大学説明会等） ○「高校生のための学びの基礎診断」測定ツールとしての校内実力テストの実施 ○進路資料室・自習室の環境整備、進路資料の充実	・授業への満足度/85%以上※ ・各種行事の満足度/95%以上※ ・5教科6・7科目型共通テスト受験者/90%以上 ・国立大学現役合格者/180人以上 ・難関大・医学部進学者/50人以上 ・進路資料室・自習室の利用者/1日50人以上 ・「学校は学力向上に成果を上げている」と答える保護者/85%以上	・総合的な探究の時間の活動を見学したカリキュラムアドバイザーからの助言をもとに、シラバスの構築を行った。 ・授業への満足度85%、各種行事の満足度96% ・「学校は学力向上に成果をあげている」88.8% ・進路実現に対応する行事については、①職業を知るセミナーは講師招聘はやめ、Web上にある職業に関する動画を使い職業感の育成を行った。②大学出張講義も同様にWebを利用した形で行った。③医学科講演会は9月の初めに外部講師を招いて行った。保護者対象の大学説明会等は実施できなかった。 ・放課後講習、土曜講習、各種模試は予定通り行った。 ・5教科6・7科目型共通テスト受験者94%（昨年度88.5%） ・臨時休業の対応については、①家庭学習課題を全生徒に2回郵送した。②ClassiやGoogle Driveを利用し、本校独自の授業の補助動画教材217本を作成、配信した。③生徒のコミュニケーションを図るため、登校日を設けた他、ZoomによるSHRを実施した。④携帯電話をレンタルし3年次生への進路相談などを行った。⑤土曜授業（9/26,11/28,12/19）を実施するなどして授業進捗を担保した。	A	○総合的な探究の時間において、模擬国連やディベートを通して、生徒は探究的で協働的な学びを深めた。 ○生徒アンケートの「授業への満足度」、及び保護者アンケートの「学校は学力向上に成果をあげている」ともに成果目標を達成した。 ○文系理系問わず広く学ぶことの大切さを理解し、大多数の生徒が実行した。 ●進路資料室・自習室の利用は密を避けるため椅子を減らしての利用であったため目標には到達しなかった。 ○「高校生のための学びの基礎診断」測定ツールとしての校内実力テストは進路検討会の資料等で有効利用できた。 ○進路課行事はコロナ禍の影響を受けたが、柔軟に対応し効果を上げることができた。 ○特に1年次生はコロナ禍の影響もあり、学習習慣の定着が遅れたが、2学期以降は落ち着いた授業態度で臨む雰囲気が出てきた。 ○臨時休業（4月11日（土）～5月24日（日））は長期に渡ったが、学習支援に向けた工夫を重ね、概ね学習保障をすることができた。
ウ ◎生徒の自己肯定感の高揚、希望ある未来像形成への支援	○悩みを抱えた生徒の早期発見 ○生徒理解のための情報共有推進	・楽しく充実した生活を送っている/90%以上※ ・生徒情報を共有するシステムの充実	・楽しく充実した生活を送っている/92%（いじめの防止等対策委員会10月実施アンケート） ・心身に問題を抱える生徒の増加に対して、家庭へのサポートを含めて対応した。週1回の定例ミーティングを26回実施し、情報の共有と対策の検討に努めた。 ・特別支援教育伝達講習、発達障害の理解と支援に向けた研修を全教員を対象に実施した。 ・自己肯定感を高めたり、不安を解消する目的で、心理アドバイザーによる講話を実施した。	A	○教育相談担当教員と担任・副担任が連携し、生徒の心情の理解に努めることができた。 ○定例ミーティングにより情報の共有と対策の検討ができた。 ●生徒の自己肯定感や有用感を高めるとともに、生徒個々の問題の早期発見に更に努め適切に対応する。
エ ◎学校情報の効果的発信、信頼される学校づくりの推進	○学校HP等による情報発信 ○PTA等との綿密な連携 ○創立120周年に向けた準備 ○保護者アンケートの実施	・PTA総会の参加率/70%以上 ・地区会の参加率/80%以上 ・保護者アンケート結果/4段階評価の全体平均3.50以上	・コロナ禍のためPTA総会は書面開催とし、委任状をもって議決。 ・地区会はコロナ禍のため開催中止。 ・保護者アンケートについては、地区会が開催されなかったため、例年と違い全学年の保護者を対象とした。4段階評価では3学年全体3.25、1年3.29、2年3.28、3年3.18。3学年平均で3.50以上を達成した項目はなかった（最高は項目⑩3.49(部活動と学習の両立)）。最低は項目③3.06(生徒の悩みに対応し、実態を把握し生徒理解に努力している)であった。 ・120周年に向け、校内の具体的な役割分担を構築し、準備に取りかかった。	B	○休業期間中も文書の他、学校HPや生徒・保護者メールを使い適切な情報発信ができた。 ●YouTube等、SNSやクラウドサービスを活用した情報発信も検討していく。 ●PTA関連の行事はほぼすべて中止となったため、これまでのやり方を見直し、改善しつつ継承を図る。 ●120周年記念式典実施に向け、関係団体と調整し、滞りなく準備を進める。
オ ◎図書館広報活動、朝読書、読書会の充実	○学年・教科等と連携した選書の質の向上、活用内容の高度化 ○読書会活性化	・図書館通信の発行 ・年間貸出し数/生徒3000冊以上 ・県読書感想文コンクール上位入選	・図書館通信を毎月発行し、機会に応じた特集記事で、生徒の興味の喚起に努めた。 ・貸出冊数1月の時点で約2200冊。昨年度より微増。 ・読書感想文コンクールにおいて、1名入賞。 ・令和2年度子供の読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰受賞	A	○図書館通信において新着本やシリーズ本・雑誌等の紹介を行い、生徒の興味・関心を高めた。 ●貸出冊数の増加に向けて、教科・学年と連携し、探究活動や授業の中で積極的な活用を試みる。 ○朝読書や読書会を活発に行うことができた。 ○県読書感想文コンクール1名入賞

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	達成状況	自己評価	令和2年度の成果(○)と課題(●)
カ ◎英語コミュニケーション能力と国際感覚を備えた生徒の育成	○1年次生対象のワークショップ及びケンブリッジ英検の実施 ○BB研修（上記の優秀者が参加する米国研修）実施 ○短期・長期留学の紹介	・1年次生希望者数／40人 ・ワークショップ回数／15回 ・米国研修報告書の発行 ・国、県、民間のプログラム参加	・コロナ禍で米国研修は中止したが、8月10～14日のエンパワメントプログラムには例年を大幅に上回り、1年次生18名が参加した。 ・ALTによる英会話教室は、例年通りの40名に対し15回実施し、22名が2月末のケンブリッジ英検を受検予定。次年度8月の米国研修実施は未定。 ・WWL事業のポスターセッションに1年次生1チーム6名が参加した。 ・長期留学（県教育委員会事業「ふじのくにグローバル人材育成事業」）した生徒1名。	A	○米国研修の代替として、3月高校入試期間中に自宅でオンライン受講できるグローバルリーダー育成プログラムを企画した。2年次生12名、1年次生4名が受講予定。 ●来年度の米国研修実施が不透明のため、同窓会BB委員会と生徒の理解を得られる次善策を講じる。 ○長期留學生徒はドイツに留学した。ホストファミリーはトルコ人で、日本、ドイツ、トルコの3つの文化と価値観を体験した。オンラインで実施された県の成果報告会で発表を行った。
キ ◎課題研究の充実と最先端の科学研究に学ぶ機会の確保	○設備・機材の計画的整備 ○科学未来館研修、電子顕微鏡実習、放射線実習、科学講演会の計画的実施 ○効果的な探究活動プログラムの研究	・課題研究達成度／5段階で4以上 ・研修満足度／5段階で4以上 ・実習満足度／5段階で4以上 ・科学講演会満足度／5段階で4以上	・研修・実習等の満足度は、電子顕微鏡実習4.95、放射線実習4.90、科学講演会4.69だった。科学未来館研修は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。 ・外部の企画に積極的に取り組んだ。具体的には科学の甲子園県大会最終予選で準優勝、日本生物学オリンピック2020（金賞）、化学グランプリ（銅賞）、高校生バイオサミット優秀賞・審査員特別賞、情報オリンピック予選奨励賞。 ・静大、遺伝研、AOI-PARC他と連携し探究活動を実施した。	A	○課題研究では、遺伝研・静大等と連携することにより主体的・自主的に探究活動を行うことができた。 ○コロナ禍の中ではあるが、生徒が積極的に学校外の大会に挑戦している。今後も可能な限り支援をしていく。 ●研究発表等に使用するパソコン等が老朽化しているが、新しいパソコンが令和3年1月に追加整備された。
ク ◎生徒の学びを深める教職員研修の充実	○ICTを活用した授業方法の研究 ○沼東評価規準の研究 ○教育情勢や進路に関する情報の提供 ○大学入試改革への対応	・全教員による授業公開 ・学習評価の研究と実践事例作成 ・研修報告や進路情報資料の配布／常時 ・学習履歴DBの構築	・学習評価研究は平成30年度よりNN10で検討継続中。令和4年度実施の「観点別評価」に向けて、令和2年度は2期間（8/25～9/25、1/7～2/26）実施した。 ・生徒理解や人権教育の校内研修を実施した。 ・コロナ禍の影響で、進路関係の情報が日々変化するなか、最新の情報を可能な限り早く職員に伝達した。 ・進路検討会では、iPadを利用し、紙媒体の資料を減らす取り組みを始めた。 ・Classi（ベネッセ）を活用し、各学期ごとに生徒一人ひとりが学習、探究活動、部活動、行事等について振り返り、学習履歴等の記録を蓄積した。	B	○県教委による定期訪問時に授業公開を行い、互いの授業を参観し、感想などを伝えあった。 ●ICT活用等をテーマとした全教員による授業公開週間等を設け、一層の授業力向上に努めていく必要がある。 ○学習評価研究は、全体発表・研修を通して、教科の枠を越えて問題点などを共有した。また、定期訪問と連携した研修により学習評価の理解が深まった。 ●学習評価研究は令和3年度に第3期間を4月19日～5月31日の期間で実施する予定である。また、令和4年度シラバス作成に向け、各教科で評価規準の軸となる生徒につけさせたい力を明確化していく必要がある。 ○人権教育、生徒相談に関する校内研修により、人権を尊重した生徒指導の在り方などを再確認した。 ●学習評価研究の他、種々の教育課題について、今後とも成果と課題を共有、検討していく必要がある。
ケ ◎健康・安全で働き方を意識した職場環境づくり ◎倫理観と危機管理意識の高い教職員集団の維持・向上	○「勤務時間の上限時間」の周知 ○定期的な健康診断の実施 ○コンプライアンス研修の実施 ○危機管理に関する訓練の実施	・勤務時間管理システムの適切な運用 ・職員健康診断受診率／100% ・教職員の不祥事根絶 ・救急講習等の実施 ・校外防災訓練参加率の向上	・職員健康診断受診率100% ・外部講師の招聘はできなかったが、職員救命講習会を実施した。 ・校外防災訓練生徒参加率15.3%（昨年度昨年度87.6%）、教職員4.4%（昨年度52.9%）新型コロナウイルス感染症防止のため、未実施の自治体が多く、参加率は非常に低かった。	B	●勤務時間管理システムを適切に運用したが、依然として超過勤務の教員があり、時間外勤務の十分な削減には至らなかった。 ○職員の定期的なコンプライアンス研修は機能し、不祥事はなかった。 ○新しい生活様式に従い、マスク着用、手洗い・うがい・換気の励行、消毒液の設置等を行い、感染防止における注意喚起を行うことができた。 ○職員救命講習会を実施し、外部講師からの指導は受けることができなかったが、校内研修として、職員全員で救命法を実習し、危機管理対応を共有することができた。 ●新型コロナウイルス感染症の影響もあり、校内避難訓練を実施することができなかった。また地域の防災訓練も未実施の自治体が多く、危機管理の意識を高めることができなかった。